

---

# きみはアイスをたべながらささやく

白坂 ゆのる

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

・きみはアイスをたべながらささやく

### 【Nコード】

N4443C

### 【作者名】

白坂 ゆのる

### 【あらすじ】

砂糖（微糖）100%でできたお菓子よりも甘いです。

あずきアイスをくちにいれて、はじっこだけを歯でかみしめた。  
そして悲鳴をあげることもなく、アイスのはじっこはぼくの口のかな  
かへと入っていく。

「あたし、ガリガリくんがほしいの」  
ひとさしゆびを口にくわえて、ものほしげな表情をつくってきみは  
言った。

ぼくはあくまでクールな表情になることを心がけて、それに応じた。  
「冷凍庫のなかにあるから、じぶんでとれ」

「あつくて、うごけないの」  
おおげさに手で顔をあおいでみせて、苦しそうな顔をしてみせる。  
が、無視だ。

そんなぼくをにらんでから、きみは縁側に足をほつりだしてそのま  
ま廊下にねそべった。

「そこ、きたない」  
「いいもん」

「あつそ」  
「うんそう」

「よこれるぞ」  
「アイスもつてきたらおきてあげる」

「やだよ」  
「じゃあこのままよ」

狡猾、こんなことばが似合う笑みをうかべて、きみはぼくを挑発的  
にみつめた。

ぼくもまげじと睨み返して、また小豆アイスをかじりとると、しゃ  
こつという音が軽快に部屋のなかに響く。

「あずきアイスなんて、いらないわ」

「あげる、なんていってないけど」

ふたたびぼくたちはにらみ合った。

アイスがとけてしまうのではないか、というくらい暑いかんじがする。

なにもしていないのに、額から汗の玉がぼこりとうまれていくのだ。そしてそれはぼくのほおを伝って、床にまでたどりついて太陽に蒸発していく。

「すき、だなんていってないわ」

「すきになれ、なんていってないけど」

「心のなかでいつてるくせに」

その瞬間から、顔中があつくなくていく。それもこれもこの暑さのせいだ、と信じた。

決して、こんなやつのせいではないのだ。冷静になれ。そう自分にいきかせた。

「すなお、になればあ？」

右の口角をいやらしくあげて、きみはぼくを見る。

そのおおきな、たれ目気味のひとみの中にはいたずらっぽい光が宿っていた。

目を背けたら、こいつは絶対ぼくをわらうだろうな。

そう思つて、ぼくはきみの口の前に小豆アイスをゆっくりと差し出した。

するときみは生意気ににっとわらつて、ぼくをにらんだ。せみの音がやけにおおきく聞こえる。

次の瞬間、きみが大きく口を開けたと思ったら、小豆アイスのはじっこに襲いかかった。

かこつと歯とアイスがかさなった音がして、小豆アイスははじっこを奪われた。

「あずきはいやなんじゃないの？」

きみをばかにするような口調で言つて、ぼくはきみをあざ唾った。

しかしきみは怒ることなく、ゆっくりとアイスをかみながら眉をかめた。

「これ、あまくないわ」

「あっそ」

「もつと、あまいのがほしい」

きみはそういって、寝そべったままぼくに細くて白い手をのばまっすぐにぼくへのばした。

口元に美しい笑みをたたえて、ひとみはまっすぐにぼくを見据える。「じゃ、あげるよ」

ぼくが膝を床につけると、お互いの視線が絡み合う。

きみのひとみはいやに挑発的で、獲物を狩ろうとする肉食動物のように、好戦的だった。

しかしあくまでのその瞳には、砂糖のような甘さが宿っている。

どちらからも視線をそらすことなく、ぼくたちはくちびるをゆっくと重ね合わせた。

きみの細い腕がぼくの首に色っぽくからみついていく。

ふにょんとした、きみのくちびるは柔らかくて小豆アイスの味がした。

100%砂糖でできたアイスなんかよりもよっぽど濃厚で、甘かった。

「…あまい、だろ？」

くちびるを離れたあと、ぼくたちは視線をそらさずにその甘い余韻をかみしめる。

「微糖、100ぱーせんと」

きみが言ってお互いに顔を見合わせてどこがおかしいわけでもないのに、くっくと笑いあった。

「すきよ、ゆっくん」

ぼくが、真っ赤になって夏といっしょに溶けていく。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4443c/>

---

.きみはアイスをたべながらささやく

2011年1月11日15時25分発行